



一年中が海日和
理想のサーフライフを叶える家

消防士 島田俊一さん

波を楽しむために銭函へ越してきた島田さん。
新居はサーファーの理想で満たされている。
自宅からウェットスーツ姿で海へと向かう足取りは、いつも軽やかだ。

photograph by Shusaku Nagahama (SAPPORO COMMERCIAL PHOTO STUDIO)

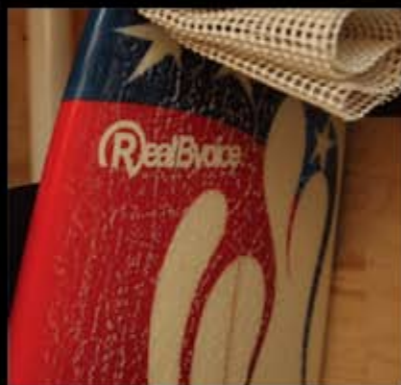
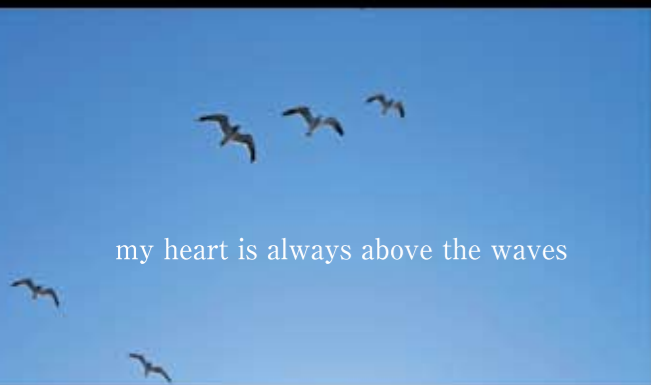


窓から海を見る。波がよければ海に行く。サーフボードを抱えて、歩いて行く。そんなライフスタイルはサーファーたちの憧れだ。

銭函に住む消防士・島田さんの趣味はサーフィン。ウェットスーツ越しに見える隆々とした筋肉は、消防士としての訓練と波の上で鍛えられたのだろう。仲間内からも島田さんの波上での腕前は高く評価されている。穏やかな笑顔で「サーフィンは生活の「部」と話す島田さんは、まさにその言葉通りの家を手に入れた。

サーフィンとの出会いは、大学時代、先輩に誘われて行った千葉の海で。初めての波は思った以上に難しく、楽しむ余裕などまるでなかったという。「寒いし、痛いし、思い通りにできないし、最初の頃はとても大嫌いなスポーツでした(笑)」。

しかし、うまく波に乗れない悔しさと意地から、その後も海に通い続けた。初めてサーフボードに乗った日からしばらくの間はサーフィンに苦痛を感じていたそうだが、練習を積み重ねていくうちに次第に上達し、気付いたときにはすでにそのおもしろさの虜になっていたという。



絶好の波にいつでも会えるように
銭函に得た〈サーファー仕様の家〉



my heart is always above the waves

波の上で得られる痛快さに魅了され、サーフィン中心の毎日を送っていた島田さんは、波の状態のよい銭函に家を建てたいと考えるようになる。「海が見える場所であること、海まで歩いていける距離であること、駅の近くであること」という条件は譲れなかったため、土地探しにはかなり時間がかかりました。自らの足でやつと理想の土地を見つけた島田さんは、数社の建築会社に相談をし、その中でもプランニングが魅力的だった〈脇坂工務店〉に新居を任せることに決めた。「海がよく見えるよう、2階の窓を大きく……というくらいいしか、考えていなかったんです。でも、脇坂工務店さんはサーファーが暮らしやすいアイデアをたくさん提案してくれました」。

この家の正面には、入り口がふたつ並んでいる。通常の出入りに使われるのは中央にある玄関。その右横には浴室へとつながる勝手口。また、外にシャワースペースが設けられているのも特徴だ。「海から帰ってきたら、勝手口脇でまずシャワー。サーフボードなどもここで洗います」と、とてもお気に入りの様子。湘南などの海のメッカではわりとポピュラーな設備らしいが、北海道では大変珍しい。

ポイラーと直結した温水シャワーは冬場も凍結の恐れがなく、快適に使えるという。そして〈サーフィン用玄関〉とも言えるべき勝手口の扉を開けるとクロークルームがあり、サーフボードやウェットスーツなどが置かれている。ここは着替えのスペースとしても便利だ。設計・施工を手掛けた脇坂さんによると「ここはコンクリート床の下に床暖房を敷設しているので、冬場も裸足で快適に歩けます。床が濡れてもすぐに乾き、ウェットスーツの乾きも早い」とのこと。

そしてこのクロークルームを奥に進んでいくと浴室がある。このような造りで動線をふたつにすることで、玄関やリビングは砂などで汚れることなく、きれいに保たれる。まさにサーファー仕様の家！ポイラーボードが趣味という奥様にも、嬉しい造りだ。もちろん、2階の大きな窓からは、海の様子がよく見渡せる。

くつろぎの時間を過ごすリビングにも、こだわりがある。シンプルであることに徹した明るい空間。その床には、あたたかみと高級感のある天然の無垢材が使用されている。また、このリビングの壁には収納型の大きな鏡が備えられている。この鏡は、スポーツインストラクター

波の上で得られる痛快さに魅了され、サーフィン中心の毎日を送っていた島田さんは、波の状態のよい銭函に家を建てたいと考えるようになる。「海が見える場所であること、海まで歩いていける距離であること、駅の近くであること」という条件は譲れなかったため、土地探しにはかなり時間がかかりました。自らの足でやつと理想の土地を見つけた島田さんは、数社の建築会社に相談をし、その中でもプランニングが魅力的だった〈脇坂工務店〉に新居を任せることに決めた。「海がよく見えるよう、2階の窓を大きく……というくらいいしか、考えていなかったんです。でも、脇坂工務店さんはサーファーが暮らしやすいアイデアをたくさん提案してくれました」。

この家の正面には、入り口がふたつ並んでいる。通常の出入りに使われるのは中央にある玄関。その右横には浴室へとつながる勝手口。また、外にシャワースペースが設けられているのも特徴だ。「海から帰ってきたら、勝手口脇でまずシャワー。サーフボードなどもここで洗います」と、とてもお気に入りの様子。湘南などの海のメッカではわりとポピュラーな設備らしいが、北海道では大変珍しい。



リビングには明るさとぬくもりを



no life without surfing!



(有) 脇坂工務店

わでこかこつもく
銭函を拠点とする建築会社。予算に応じてこだわりの住まいを実現。暮らす人の視点に立った、アイデアに富んだプランニングに定評がある。
住所:小樽市銭函2-43-9
電話:0134-61-2488
URL:<http://www.wakisaka-eo.com>

をしている奥様のためのものだ。余計なものが一切ない広々としたこの部屋は、時としてトレーニングスタジオに変身する。昨年の11月からこの家で暮らす島田さんご夫妻。地元のサーファーたちとの交流も深く、仲間が遊びに訪れることも多いのだそう。そんなときは決まって《波乗り談義》が繰り広げられるそうだが、仲間たちからも島田さん宅は「サーファーにとって理想の家」と、羨望の眼差しが向けられているという。家から海へ、海から家へ。立地のよさだけでは得られなかった利便性と実用性は、マリンスポーツを愛するご夫妻のライフスタイルをよりいっそう輝かせた。《自慢の家》を嬉しそうに案内してくれた島田さんの笑顔が、すべてを物語っている。

